

東日本旅客鉄道株式会社

執行役員 盛岡支社長 嶋 誠 治 様

趣 意 書

平成27年 2月23日

遠野駅舎の未来を考える会会長 河野 好宣

遠 野 市 ・ 遠 野 市 議 会

J R 釜石線遠野駅舎の維持・整備について

遠野市は、四季が織りなす美しく広大な自然と、柳田國男が著した『遠野物語』の世界に、日本のふるさとと呼ばれる原風景を求めて、年間200万人を超える観光客が訪れています。

本市の玄関口となる遠野駅は中心市街地に位置し、遠野駅を起点に商店街が広がっており、昭和25年に建てられた「ヨーロッパの建築様式を取り入れた石積みを思わせる重厚な趣きある硬質コンクリートブロック造りの駅舎」を中心市街地のシンボルとして街並みの整備に取り組んできたところでもあります。

昭和60年に策定した「遠野市H O P E 計画（地域住宅計画）」による地場産木材をふんだんに使った潤い溢れる大工町通りを皮切りに、平成6年から整備が始まった下一日市地区区画整理地における城下町として栄えた町家文化の雅の趣きを伝える蔵造りの街並み景観と続き、平成21年には、さらなる中心市街地における人々の交流による賑わいの創出を進めるため「遠野市中心市街地活性化基本計画」を策定しました。

この計画のもと、遠野駅北側に市営住宅を建築、遠野駅前では駅舎の外観との景観を重視した洋館風のまちおこしセンター、町家と蔵を基調とした観光交流センターを整備するとともに、平成25年4月には、文化の拠点として「とおの昔話村」の大規模リニューアルを図った「とおの物語の館」が完成したところでもあります。

遠野駅舎を中心市街地整備のシンボルとして取り組んできたこれら一連の整備は「遠野物語を核とする民俗学と建築文化の振興および歴史的町並み修景の業績」として平成26年5月、国内で最も権威のある建築の賞「日本建築学会文化賞」を受賞しました。

現在、取組みを進めている第2期計画では、駅前通りの無電柱化、ポケットパークの再整備に加え、東日本大震災で被災した本庁舎の整備場所を、現在仮住まいしている駅前に隣接する遠野市中心市街地活性化センター（通称：とぴあ）を活用しながら、その南側の一角に2階渡り廊下で接続する増築とし、さらなる中心市街地の活性化構想に向けて佳境

に入ったところであります。

また、貴社の御努力により、平成26年4月に実現したS L銀河の運行は、本市への観光客の増加に反映され、地域の活性化に大きく結びついております。S L銀河と遠野駅舎が醸し出すノスタルジックな風情は、見る者すべてに愛される風景として定着しています。

「永遠の日本のふるさと遠野」を標榜し、豊富な地域資源を活かしたまちづくりを進める本市にとって、市民はもとより全国から訪れる多くの人々から、遠野にふさわしい建物と評判の高い遠野駅舎は、まさに遠野が持つ地域資源であり、遠野の歴史そのものであります。

今般、貴社から発表された「老朽化による遠野駅舎の縮小建て替え」を受け、本市では、本年2月9日、市民による「遠野駅舎の未来を考える会」を正式に立ち上げ、現在の駅舎の存在意義や今後の対応などについて、市民、市及び市議会とともに考えていくことにしました。

つきましては、現在の駅舎を、中心市街地の象徴的存在として街並みの整備に取り組んできた本市のまちづくりの歴史とともに市民及び多くの遠野ファンの心情をお察しいただき、今後の遠野駅舎の整備方針、工事時期などについては、解体の可否を含めて、本市との十分な話し合いのもと、納得のうえでの決定としていただくよう御配慮賜りますことを要望いたします。

